

# shindaiwa

## 取扱説明書

### エンジン溶接機

## EW130 EW130D

空冷4サイクル・OHVガソリンエンジン

#### ▲ 注意

安全のため、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。


また、いつでもご覧いただけるよう、大切に保管してください。


目次	頁
1. 安全上の注意	2
2. 仕様	5
3. 用途	6
4. 各部の名称	6
5. 装備	8
5-1. オイルセンサー	8
6. 始業前点検	8
6-1. エンジンオイルの点検	9
6-2. 燃料の点検	10
6-3. 燃料・オイルもれの点検	10
7. 運転方法	11
7-1. 始動	11
7-2. 停止	13
8. 溶接機として使用する場合	13
8-1. 溶接ケーブルの選定	13
8-2. 溶接の極性	14
8-3. 溶接ケーブルの接続	14
8-4. 使用率	15
8-5. 溶接作業	15
9. 補助電源を使用する場合 (EW130Dのみ)	17
9-1. DC12Vエンジンスタータ	17
9-2. DC12V・DC24V急速充電	18
9-3. DC12V出力	19
10. 点検・整備	20
11. 長期保管	24
12. 故障時の対応	25

## はじめに


このたびは、新ダイワのエンジン溶接機をお買い求めいただき、まことにありがとうございます。

- この取扱説明書は、本機を安全に正しく使用していただくために作成したものです。  
本機の取り扱いを誤りますと事故や故障の原因となりますので、ご使用前には必ずこの取扱説明書をお読みください。
  - 本機の取扱いは、この取扱説明書の内容を理解し、安全な取り扱いができる人が行ってください。
  - 本機を貸し出す時は、必ず取扱説明書を添付してください。
  - 取扱説明書は、いつでもご覧いただけるように大切に保管してください。
- この取扱説明書では、注意事項のランクを下記のように区分しています。

 危険：取り扱いを誤ると、死亡または重傷を負う可能性がある場合。

 注意：取り扱いを誤ると、中程度の傷害や軽傷を負う可能性がある場合および物的損害が発生する可能性がある場合。

〈注意〉：本機の保護と、本機の性能を十分に発揮させるための注意事項。

- 『 注意』に記載した事項でも、状況によっては重大な事故に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

# 1. 安全上の注意

## ❖ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

## ❖ 危険：感電

- 運転中、本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- 運転中は、内部の配線や電気部品に触れないでください。
- 溶接端子への溶接ケーブルの取り付け・取りはずしは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- スタータ・充電端子への接続ケーブルの取り付け・取りはずしは、必ずエンジンを停止して行ってください。
- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

## ⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

## ⚠ 注意：溶接煙による中毒

- 溶接時に発生する煙には、有害なガスや粉塵が含まれていますので、必ず防塵マスクを着用してください。また、煙を吸い込まないように風向きにも注意し、十分な換気を行ってください。

## ⚠ 注意：目や皮膚の障害

- 溶接時に発生する有害な光線から目や皮膚を保護するため、必ず遮光保護具を使用し、肌が露出しない服や保護具を着用してください。

## ⚠ 注意：感電

- 本機に水をかけたり、雨中での使用はしないでください。
- 運転中は、スパークプラグ・プラグキャップ・高圧線には触れないでください。

## **▲ 注意：火災**

- 本機は、燃料としてガソリンを使用しています。燃料の点検や給油・抜き取り・燃料コックの清掃などを行うときは必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。
- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。また、燃料もれがある場合は絶対に使用せず、必ず修理してください。
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は本機に近づけないでください。
- 溶接時はスパッタが飛散しますので、引火性のある物や燃えやすい物は作業場周辺に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。
- 保管用カバーなどをかけるときは本機が冷えてから行ってください。

## **▲ 注意：やけど**

- 運転中や停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、触れないでください。
- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。
- 溶接時にはスパッタが飛散しますので、革製の手袋・前掛け・足カバーや遮光保護具（保護面）・安全靴・安全帽・長袖の服を必ず着用してください。

## **▲ 注意：けが**

- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪（別売品）には必ず車輪止めをしてください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。
- 運転中に移動しないでください。

- 点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。
- 改造したり、部品をはずしたままで運転しないでください。

## ■溶接機の操作に関する関連法規・資格

本機の操作などにおいては、関連する法規を遵守してください。

### ●法規

労働安全衛生規則 第36条第3号 労働安全衛生特別教育  
(安全衛生特別教育規定第4条)

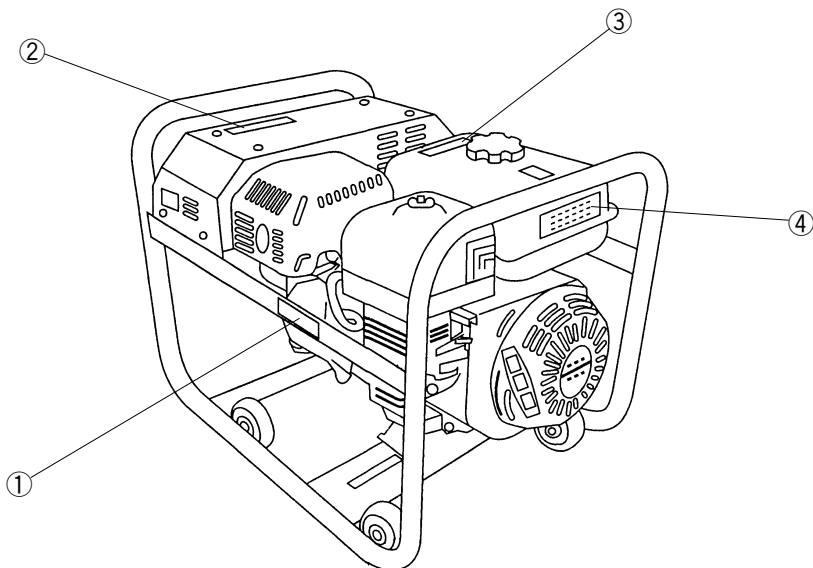
### ●資格者

労働安全衛生規則に基づいた教育の受講者

## ■警告ラベル貼付位置

警告ラベルが見えにくくなったり破損したときは、新しいラベルを指定場所に貼りかえてください。ラベルの注文は（ ）内の番号で注文してください。

- ①高電圧 (品番19402-00139)
- ②感電 (品番19402-00103)
- ③排気ガス中毒 (品番87526-ZH 8-000)
- ④火気厳禁 (品番87520-ZH 8-000)



## 2. 仕様

モデル		EW130	EW130D
直 流 溶 接 電 源	定格出力 (kW)	2.98	
	定格出力電流 (A)	120	
	定格負荷電圧 (V)	24.8	
	定格使用率 (%)	40	
	定格回転速度 ( $\text{min}^{-1}$ )	3600	
	無負荷電圧 (V)	MAX65	
	電流調整範囲 (A)	40~130	
	使用溶接棒 (mm)	2.0~3.2	
補 助 電 源	DC12Vエンジンスタータ	—	○
	DC12V出力	—	○
	DC12V急速充電	—	○
	DC24V急速充電	—	○
工 シ ン	名称	空冷4サイクルOHV式ガソリンエンジン	
	型式	ホンダGX200	
	排気量 (ml)	196	
	連続定格出力 ( $\text{kW}/\text{min}^{-1}$ {PS/rpm})	4.1/3600 {5.6/3600}	
	燃料の種類	無鉛ガソリン	
	エンジンオイル	SE級以上	
	エンジンオイル容量 (L)	約0.6	
	始動方式	リコイルスタータ式	
スパークプラグ	NGK・BPR6ESまたはDENSO・W20EPR-U相当		
燃料タンク容量 (L)	約3.6		
外形寸法 (mm)	L520xW390xH406		
乾燥質量 (kg)	34	34.5	

### 3. 用途

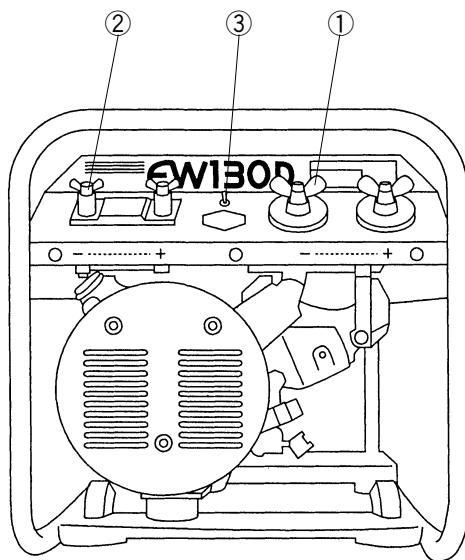
- 被覆アーク溶接
- エンジンスタータ（EW130Dのみ）
- バッテリーの充電（EW130Dのみ）
- 照明機器の電源（EW130Dのみ）

#### ⚠ 注意：物的障害

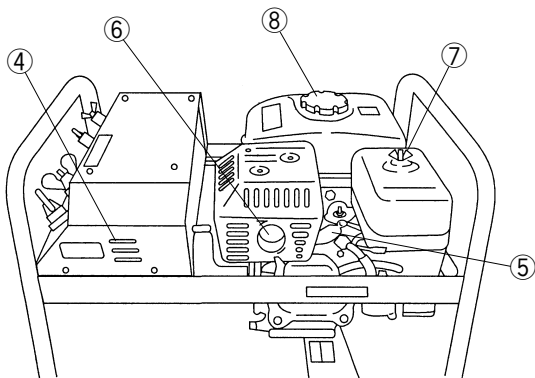
- 上記の用途以外には使用しないでください。  
コンピュータ・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用すると、使用機器が故障することがあります。

### 4. 各部の名称

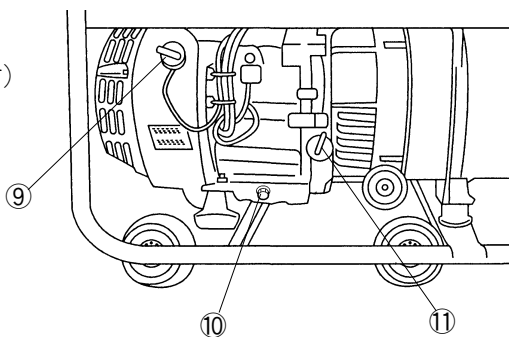
- ①溶接端子
- ②スタータ・充電端子（EW130Dのみ）
- ③出力切替スイッチ（EW130Dのみ）



- ④ヒューズ確認窓 (EW130Dのみ)
- ⑤スパークプラグ
- ⑥マフラー
- ⑦エアクリーナー
- ⑧燃料給油口

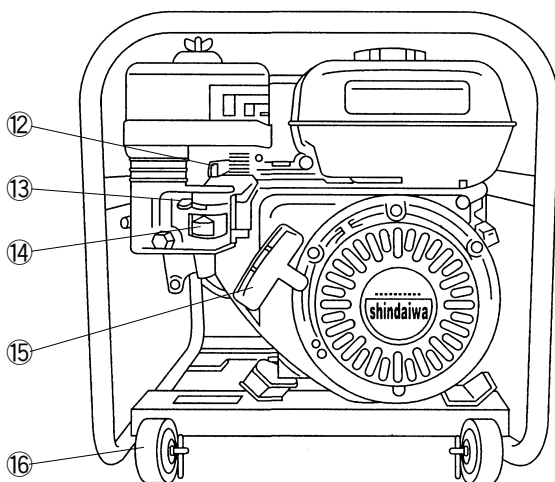


- ⑨運転スイッチ
- ⑩オイルドレンプラグ (パッキン付)
- ⑪オイル給油口 (オイルゲージ)



- ⑫電流調整レバー  
(エンジン回転数調整レバー)

- ⑬チョークレバー
- ⑭燃料コック
- ⑮リコイルノブ
- ⑯車輪 (別売品)





## 5. 装備

### 5-1. オイルセンサー

#### 注意：やけど

- エンジンオイルの点検・交換を行うときは、必ずエンジンを停止し、エンジンが冷えてから行ってください。運転中にオイルゲージを開けると、高温のオイルが吹き出します。

オイルセンサーは、エンジンオイルが少なくなると自動的にエンジンを停止させ、エンジンの焼き付きを防止する装置です。

エンジンが自動停止したときは、エンジンオイルの量を点検し、エンジンオイルを上限レベルまで給油してください。

(『6-1. エンジンオイルの点検』参照)

#### <注意>

- オイルセンサはオイルの劣化を検知することはできません。  
エンジンオイルの定期的な交換方法は『10. (1)エンジンオイルの交換』の項目をお読みください。

## 6. 始業前点検

#### 注意：火災・やけど・けが

- 点検時は必ずエンジンを停止し、絶対に火気を近づけないでください。また、エンジンが冷えてから行ってください。

## 6-1. エンジンオイルの点検

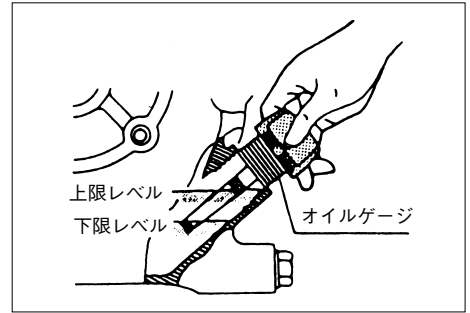
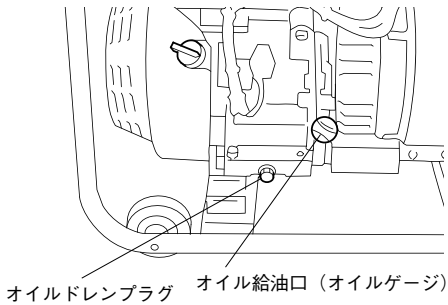
オイル量の点検は本機を水平にし、オイルゲージを給油口に差し込んだ状態（ねじ込まない）で確認してください。

始業前には、オイルを上限レベルまで給油しておいてください。

- オイル容量：約0.6L（全量）
- オイル有効量：約0.23L（下限レベルから上限レベルまで）

### <注意>

- 本機が傾いた状態では、オイル量を正確に確認することができません。
- オイル量が下限レベル付近でも、本機が傾いた状態ではオイルセンサーが作動せず、エンジンが焼き付くことがあります。

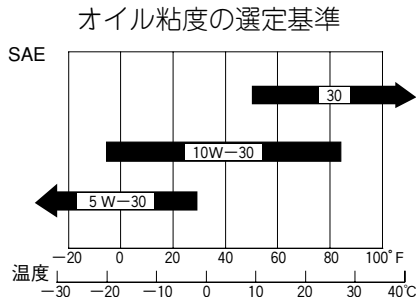


### (1) エンジンオイルの選定

オイルは、外気温度に応じて適正な粘度（下表を参照）のガソリンエンジン用オイルを使用してください。

### <注意>

- オイルの品質は、S E 級以上のものを使用してください。



## 6-2. 燃料の点検

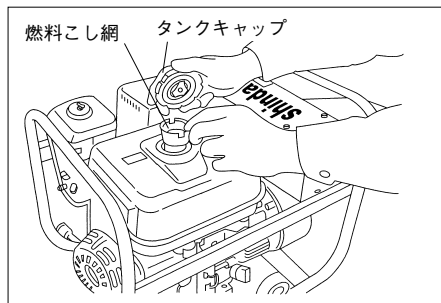
### ▲ 注意：火災

- 燃料をこぼしたときは、必ずふき取ってください。

燃料が十分入っているか点検し、不足しているときは給油してください。

#### <注意>

- 燃料は、無鉛ガソリンを使用してください。
- 2ヶ月以上使用しなかった場合は、新しい燃料に入れ換えてください。
- 給油時は燃料コックを『OFF』側にし、給油口に装着してある燃料こし網を必ず使用してください。
- 燃料は、満タンより控え目に給油してください。



## 6-3. 燃料・オイルもれの点検

### ▲ 注意：火災

- 燃料もれがある場合は、絶対に使用せず修理してください。

燃料配管接続部などからの燃料もれ、およびエンジンからのオイルもれがないか確認してください。

燃料もれの点検は、燃料コックを『ON』側にして行い、点検終了後は必ず『OFF』側にしてください。

#### <注意>

- 燃料カップ等がゆるむと燃料がもれますので、必ず増し締めをしてください。

## 7. 運転方法

### 7-1. 始動

#### ⚠ 危険：排気ガス中毒

- エンジンの排気ガス中には、人体に有害な成分が含まれていますので、室内・トンネルなどの換気の悪い所では運転しないでください。

#### ⚠ 注意：排気ガス中毒

- 排気を通行人や民家などに向けないでください。

#### ⚠ 注意：火災

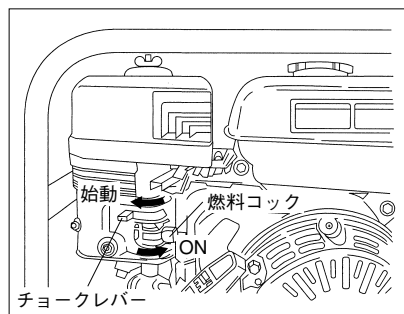
- マフラーや排気ガスなどは高温となるため、引火性のある物（燃料・ガス・塗料など）や燃えやすい物は本機に近づけないでください。
- 本機は、壁などの障害物から1 m以上離し、水平な場所で運転してください。

#### ⚠ 注意：けが

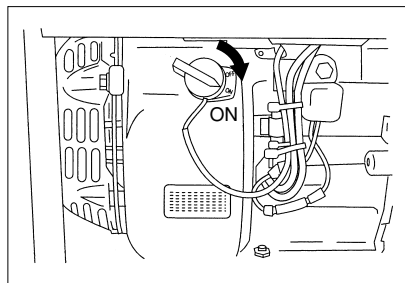
- 本機が移動しないよう、水平で安定した場所に設置し、車輪（別売品）には必ず車輪止めをしてください。
- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

① 燃料コックを『ON』側にします。

② チョークレバーを『始動』側にします。



③ 運転スイッチを『ON』にします。



④ リコイルノブを重たくなるまでゆっくり引き、一度元にもどして一気に引きます。

<注意>

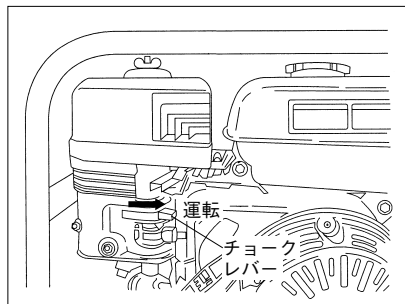
- リコイルノブは、いっばいに引ききらないでください。また、引いた位置から手放さずに、ゆっくりと戻してください。



⑤ エンジンが始動したら、チョークレバーを『運転』側にします。

<注意>

- 始動後、すぐにチョークレバーをいっぱいまでもどすとエンストすることがありますので、エンジンの調子にあわせて除々にもどし、最後には必ず『運転』側いっぱいにしてください。

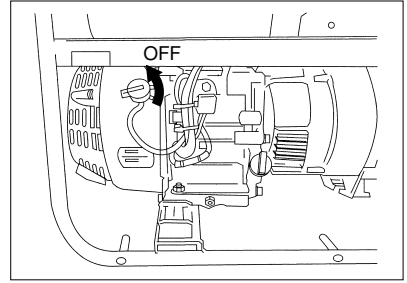


⑥ 約5分間、暖機運転をします。

## 7-2. 停止

① 約3分間、冷機運転をします。

② 運転スイッチを『OFF』にします。

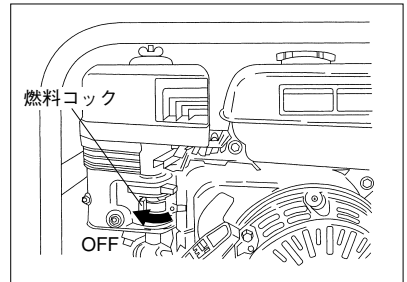


③ エンジンが停止したら、燃料コックを『OFF』側にします。

### <注意>

- 運転スイッチを『OFF』にしてもエンジンが止まらないときは、燃料コックを『OFF』側にしてください。数分後に停止します。

但し、その場合は本機をそのまま使用せず、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。



## 8. 溶接機として使用する場合

### 8-1. 溶接ケーブルの選定

溶接ケーブルは、次表に示す適正断面積以上のものを使用してください。適正断面積未満のケーブルを使用すると、溶接出力が低下します。

### <注意>

- 溶接ケーブルは、のばした状態で使用してください。うず巻き状態で使用すると、溶接出力が低下します。

## ケーブルの適正断面積

(単位：mm<sup>2</sup>)

ケーブルの往復長 溶接電流	20m	30m	40m	60m	80m	100m
130A	22	22	22	30	50	60
100A以下	22	22	22	22	30	38

## 8-2. 溶接の極性

溶接端子には、『+』と『-』があります。

作業内容に合わせ、下表を参考にして極性を選択してください。

### <注意>

- 極性が指定された溶接棒は、その指示にしたがってください。

	摘 要	接 続 方 法
正極性	・ 構造物などの一般溶接 (普通溶接)	⊖側にホルダー(溶接棒) ⊕側にアース(母材)
逆極性	・ 薄板、肉盛り溶接 ・ ステンレス鋼のアーケ溶接	⊖側にアース(母材) ⊕側にホルダー(溶接棒)

## 8-3. 溶接ケーブルの接続

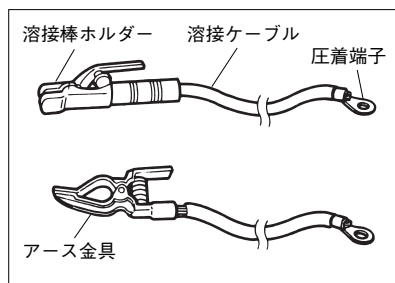
### ⚠ 危険：感電

- 溶接端子への溶接ケーブルの取り付け・取りはずしは、必ずエンジンを停止して行ってください。

↓ エンジンを停止します。

② 溶接ケーブルに、圧着端子・溶接棒ホルダー・アース金具を取り付けます。

③ 溶接端子に溶接ケーブルを接続します。



### <注意>

- 圧着端子の圧着や溶接ケーブルの接続は、確実に行ってください。不十分な場合、接続不良による発熱で溶接端子が焼損します。
- ケーブルに圧着端子を圧着せずに、被覆をはがしたままで溶接端子に巻き付けて使用すると、接続不良による発熱で溶接端子が焼損したり、本機ボディに接触してショートすることがあります。

## 8-4. 使用率

使用率とは、10分間に溶接が可能な時間の割合を示したものです。

本機は定格使用率が40%なので、10分間に溶接ができる時間は4分以内です。4分間溶接したら、必ず6分間休止してください。

### <注意>

- 連続で4分以上溶接したり、休止時間が短いと、本機が過熱して故障の原因となります。

## 8-5. 溶接作業

### ▲ 注意：溶接煙による中毒

- 溶接時に発生する煙には、有害なガスや粉塵が含まれていますので、必ず防塵マスクを着用してください。また、煙を吸い込まないように風向きにも注意し、十分な換気を行ってください。



**▲ 注意：目や皮膚の障害**

- 溶接時に発生する有害な光線から目や皮膚を保護するため、必ず遮光保護具（下表参照）を使用し、肌が露出しない服や保護具を着用してください。

遮光保護具使用標準（J I S）

遮光度番号	7	8	9	10	11	12	13
溶接電流値(A)	30～75		76～200			201～400	

**▲ 注意：火災**

- 溶接時はスパッタが飛散しますので、引火性のある物や燃えやすい物は作業場周辺に近づけないでください。

**▲ 注意：やけど**

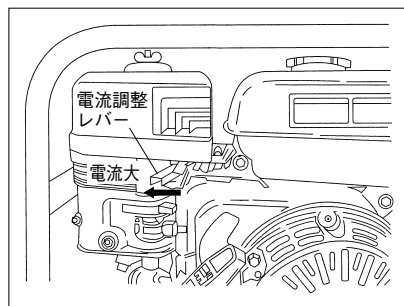
- 溶接時はスパッタが飛散しますので、革製の手袋・前掛け・足カバーや遮光保護具（保護面）・安全靴・安全帽・長袖の服を必ず着用してください。

<注意>

- 溶接と補助電源（EW130Dのみ）の同時使用はできません。

① エンジンを始動します。

② 電流調整レバーで電流値を調整します。



## 9. 補助電源を使用する場合（EW130Dのみ）

### ⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、本機に触れないでください。
- スタータ・充電端子への接続ケーブルの取り付け、取りはずしは、必ずエンジンを停止して行ってください。

### ⚠ 注意：けが

- エンジンを始動するときは、必ず使用機器のスイッチを切ってください。

### ⚠ 注意：物的損害

- コンピュータ・マイコン搭載機器・精密機器の電源として使用しないでください。使用機器が故障することがあります。

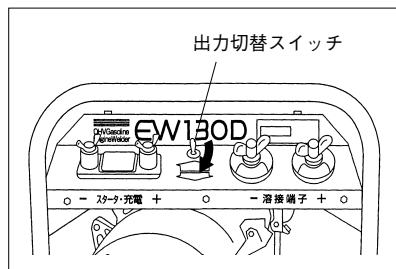
### <注意>

- 補助電源（EW130Dのみ）と溶接の同時使用はできません。

### 9-1. DC12Vエンジンスタータ

① 本機のエンジンを停止します。

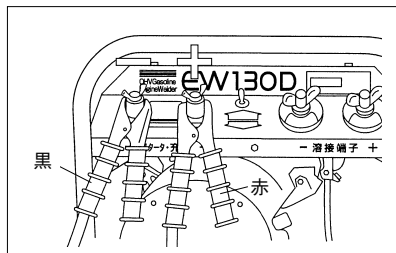
② 出力切替スイッチを『スタータ・12V充電』側にし、電流調整レバーを『スタータ・充電』の位置にします。



- ③ ブースターケーブルを本機のスタータ・充電端子に接続します。

<注意>

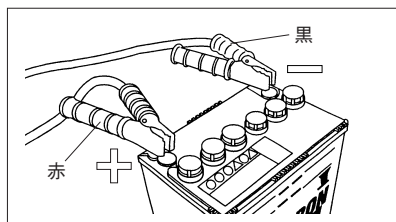
- ブースターケーブル（赤）を『+』側に、（黒）を『-』側に接続します。



- ④ エンジン始動不能となった建機、農機、自動車側のバッテリーに、ブースターケーブルを接続します。

<注意>

- ブースターケーブル（赤）を『+』側に、（黒）を『-』側に接続します。
- 『+』、『-』をまちがえると、本機内のヒューズが溶断する場合があります。



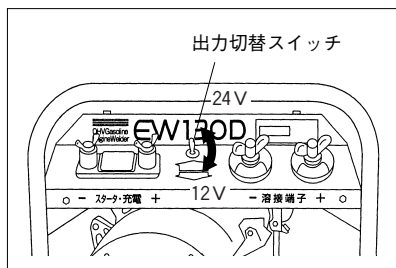
- ⑤ 本機のエンジンを始動します。

- ⑥ エンジン始動不能となった建機、農機、自動車側のセルを回します。  
セルを回してもエンジン始動できない場合は、そのまま10分間程度待ち（急速充電が行われる）、再度セルを回してください。

## 9-2. DC 12V・DC 24V急速充電

- ① 本機のエンジンを停止します。

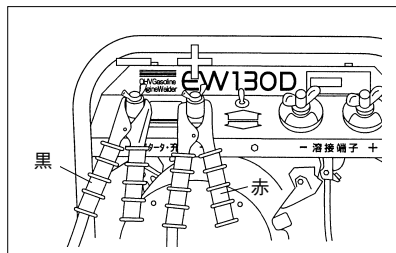
- ② 出力切替スイッチを所定の電圧側にし、電流調整レバーを『スタータ・充電』の位置にします。



- ③ ブースターケーブルを本機のスタータ・充電端子に接続します。

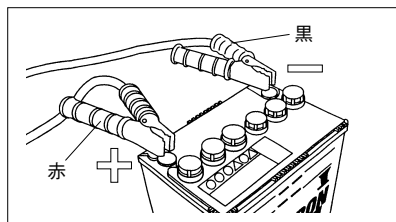
<注意>

- ブースターケーブル（赤）を『+』側に、（黒）を『-』側に接続します。

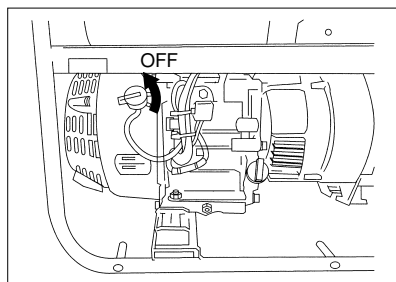


- ④ 放電したバッテリーに、ブースターケーブルを接続します。

- ⑤ 本機のエンジンを始動します。



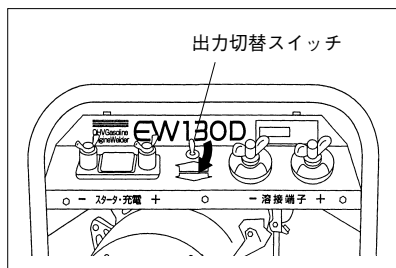
- ⑥ バッテリーの容量（比重）が回復したら、本機のエンジンを停止します。



### 9-3. DC 12V出力

- ① 本機のエンジンを停止します。

- ② 出力切替スイッチを『スタータ・12V充電』側にし、電流調整レバーを『DC出力』の位置にします。

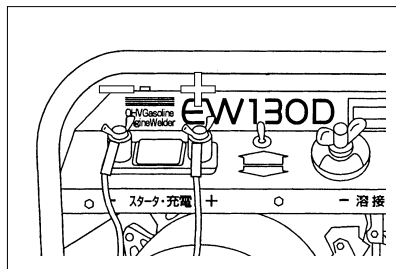


- ③ 機器のケーブルをスタータ・充電端子に接続します。

<注意>

- 『+』、『-』を間違えないように注意してください。

- ④ 本機のエンジンを始動します。



## 10. 点検・整備

**⚠ 危険：感電**

- 必ずエンジンを停止してください。

**⚠ 注意：けが**

- 必ずエンジンを停止してください。

**注意：火災・やけど**

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になりますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機を常に良好な状態で使用できるよう、次表にしたがって定期的に点検・整備を行ってください。

<注意>

- 表中の●印はお求めの販売店が弊社営業所に申し付けてください。

項 目		始業前 点検	50時間 ごとに	100時間 ごとに	500時間 ごとに	12か月 ごとに
1	エンジンオイルの点検・給油(P 9)	○				
2	燃料・オイルもれの点検(P 10)	○				
3	エンジンオイルの交換(P 21)	第 1 回目 ○(20時間目)		第 2 回目 以降○		
4	燃料カップの清掃(P 23)			○		
5	エアクリーナーの清掃・交換(P 22)		○ (清掃)		○ (交換)	
6	スパークプラグの清掃・調整(P 22)			○		
7	オーバーホール				●	
8	カーボンブラシの点検				●	
9	吸入、排気弁すきまの点検・調整					● または 300時間ごとに
10	燃料タンク、燃料こし網の清掃					●
11	燃料パイプの交換					●
12	防振ゴムの交換					●

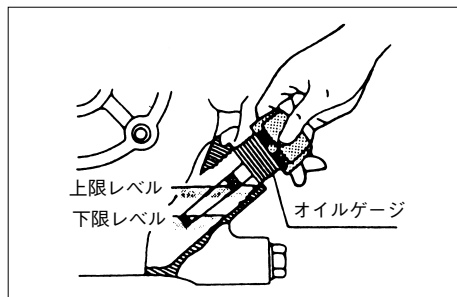
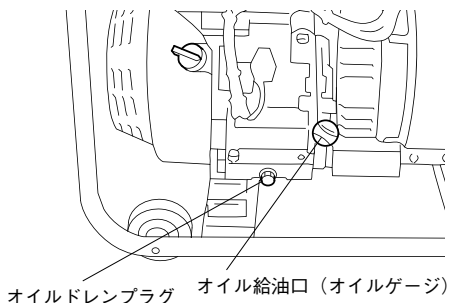
### <注意>

- 交換部品は必ず純正品を使用してください。

## (1) エンジンオイルの交換

初 回	20時間目
2 回目以降	100時間ごと

- ① オイルゲージをはずします。
- ② オイルドレンプラグをはずしてエンジンオイルを抜きます。



- ③ オイルドレンプラグに新しいパッキンを取り付け、締め付けます。
- ④ エンジンオイルを上限レベルまで入れます。(約0.6L入ります)
- ⑤ オイルゲージを締め付けます。

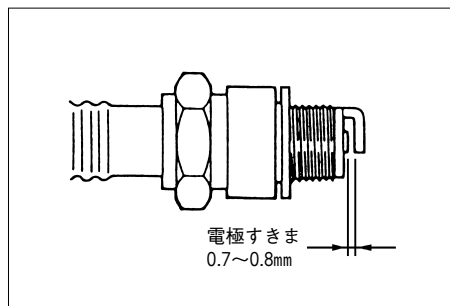
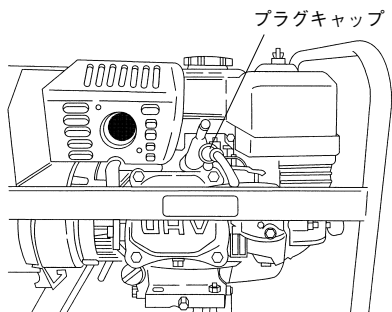
## (2) スパークプラグの清掃と調整

清掃・調整	100時間ごと
-------	---------

- ① プラグキャップを取り、プラグレンチでスパークプラグをはずします。
- ② スパークプラグが汚れているときは、プラグクリーナーかワイヤーブラシで汚れを落とします。
- ③ 電極すきまを0.7～0.8mmになるように調整します。
- ④ スパークプラグを取り付けます。
- ⑤ プラグキャップをはめこみます。

### <注意>

- スパークプラグは『NGK BPR 6ES』または『DENSO W20EPR-U』相当を使用してください。



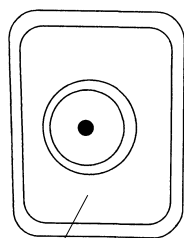
## (3) エアクリーナーの清掃

### <注意>

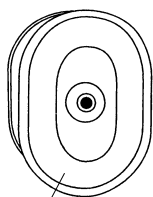
- 汚れがひどくなると出力低下や始動不良などを起こす原因となりますので、ホコリの多い場所で使用した場合は、10時間ごとまたは1日1回清掃してください。

清 掃	50時間ごと
交 換	500時間ごと

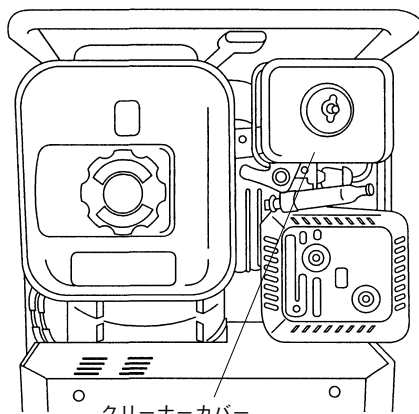
- ① クリーナーカバーをはずします。
- ② ウレタン製エレメントは、白灯油で洗浄後、エンジンオイルに浸し、固く絞ります。
- ③ 紙製エレメントは内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽くたたいて汚れを落とします。
- ④ エレメントをもとの位置に取り付けます。
- ⑤ クリーナーカバーを取り付けます。



クリーナーカバー



エレメント

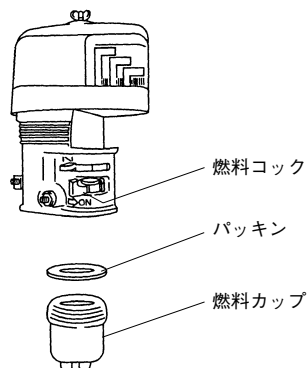


クリーナーカバー

#### (4) 燃料カップの清掃

清 掃	100時間ごと
-----	---------

- ① 燃料コックを『OFF』側にします。
- ② 燃料カップをはずします。
- ③ 燃料カップ内の水やゴミを取り除きます。
- ④ パッキンと燃料カップを燃料もれのないようにしっかり締め付けます。



燃料コック

パッキン

燃料カップ



### <注意>

- 燃料カップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。
- 取り付け後は、燃料コックを『ON』側にして燃料もれがないことを必ず確認し、確認後は『OFF』側にしてください。

## 11. 長期保管

### 危険：感電

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### 注意：けが

- 整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

### 注意：火災・やけど

- 火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから整備を行ってください。

本機を2カ月以上使用しないときは、次の手順にしたがって整備を行ってください。

- ① 燃料コックを『OFF』側にします。
- ② 燃料カップをはずします。
- ③ 燃料コックを『ON』側にして燃料タンク内の燃料を全部抜きます。
- ④ 燃料コックを『OFF』側にして、燃料カップをしっかり締め付けます。

### <注意>

- 燃料カップを取り付けるとき、パッキン部にゴミが付着していないことを確認してください。

- ⑤ エンジンを始動させてエンジンが止まるまで運転します。(キャブレター内の燃料が空になります。)
- ⑥ 運転スイッチを『OFF』にします。
- ⑦ エンジンオイルを交換します。
- ⑧ スパークプラグをはずし、その穴からエンジンオイルを約5ml注入します。
- ⑨ リコイルノブをゆっくり数回引きます。
- ⑩ スパークプラグを締め付けます。
- ⑪ エアクリーナーを清掃します。
- ⑫ 各部を清掃し、湿気・ホコリの少ない場所にカバーなどをかけて保管します。

## 12. 故障時の対応

### ⚠ 危険：感電

- 本機や体がぬれているときは、運転しないでください。
- 必ずエンジンを停止して行ってください。

### ⚠ 注意：けが

- 必ずエンジンを停止して行ってください。

### ⚠ 注意：火災・やけど

- 絶対に火気を近づけないでください。
- エンジンの停止直後は、エンジンやマフラーが高温になっていますので、エンジンが冷えてから行ってください。

本機の調子が悪いときは、次の表にしたがって点検してください。

点検しても正常にならないときは、お求めの販売店か弊社営業所に修理を申し付けてください。

症 状	推 定 原 因	処 置
エンジンが始動しない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運転スイッチが『OFF』</li> <li>2. 燃料コック『OFF』側</li> <li>3. 燃料の不足</li> <li>4. 燃料に水やゴミが混入</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運転スイッチを『ON』にする</li> <li>2. 燃料コックを『ON』側</li> <li>3. 燃料を給油する</li> <li>4. 燃料タンク・燃料カップ内部の水抜きと清掃</li> </ol>
エンジンがすぐ停止する	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オイルセンサー作動</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オイルを給油する</li> </ol>
溶接のアークが弱い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電流調整レバー位置</li> <li>2. ケーブルの接続が不十分</li> <li>3. ケーブルが不適當</li> <li>4. 母材への接続が不十分</li> <li>5. エンジンの出力低下</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レバーを左にまわす</li> <li>2. 確実に接続する</li> <li>3. 「溶接ケーブルの選定」にしたがってケーブル交換</li> <li>4. 確実に接続する</li> <li>5. 使用率40%を守る エンジンを修理する</li> </ol>
溶接のアークが強い	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電流調整レバー位置</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. レバーを右にまわす</li> </ol>
補助電源が出ない (EW130Dのみ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューズが溶断している</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューズを交換する</li> </ol>
12Vエンジンスタート機能が動作しない (EW130Dのみ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューズが溶断している</li> <li>2. 『+』 『-』 が逆接続</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューズを交換する</li> <li>2. 正規の極性にする</li> </ol>
24V急速充電ができない (EW130Dのみ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューズが溶断している</li> <li>2. 出力切替が『12V』側</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューズを交換する</li> <li>2. 出力切替を『24V』側にする</li> </ol>

# 株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6181

## やまびこ産業機械株式会社

〒731-3167 広島市安佐南区大塚西6丁目2-11    Tel 082-849-2005 (代)

## やまびこ北海道株式会社

〒004-0041 北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20    Tel 011-891-2249 (代)

## やまびこ東北株式会社

〒984-0002 宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50    Tel 022-288-0511 (代)

## やまびこ東部株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-1091 (代)

## やまびこ中部株式会社

〒452-0031 愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39    Tel 052-502-4111 (代)

## やまびこ西部株式会社

〒701-0221 岡山県岡山市南区藤田566-159    Tel 086-296-5911 (代)

## やまびこ九州株式会社

〒816-0943 福岡県大野城市白木原 5-3-7    Tel 092-573-5361 (代)

## やまびこレンテックス株式会社

〒198-0025 東京都青梅市末広町 1-7-2    Tel 0428-32-6777 (代)

ご用命の際はご購入いただいた販売店へご連絡ください。